

【成長戦略課題】富士五湖におけるヘドロの堆積要因の解明と効果的な富栄養化モニタリング指標の開発(R7~8)

富士山科学研究所

背景・目的

- 富士北麓では、河口湖を中心にヘドロ堆積による環境悪化(悪臭や生物の酸欠死)が懸念されており、地元では対策を求める要望があるため、平成25年度から研究を開始。

【これまでの研究成果】

- ・主に河口湖における富栄養化の進行やヘドロの堆積状況を継続的に監視。
- ・河口湖におけるヘドロの堆積要因が、主に湧水・底質起源の栄養塩の流入であることを究明。

【今後の課題】

- ・他の湖でも富栄養化が近年急速に進んでいるが、河口湖とは地理的条件や富栄養化が進んだ時代が異なるため、個々の湖における監視等を行い、富士五湖全体での現状把握が必要。



本研究では、富栄養化の原因となる窒素汚染状況を富士五湖全体で明らかにする。
特に、近年富栄養化が進む山中湖でヘドロの堆積要因を明らかにし、富栄養化の実態把握のための効果的なモニタリング指標を開発する。



研究内容

1年目

・富士五湖における窒素汚染状況の解明

2年目

・栄養塩循環解明とモニタリング指標の開発

継続研究

・大気由来の栄養塩負荷の実態解明

月1回の観測を継続

現状把握

クロロフィルa
栄養塩濃度
窒素同位体比の測定

堆積物コアを使い歴史的な変遷を解明

期待される効果

- ヘドロの堆積要因が明らかになることで、具体的な**水質浄化策の提言が可能**になる。
- 水質監視手法が最適化され、環境悪化の兆候を**早期に検出することが可能**になる。



良好な水質・水環境が保たれることで富士五湖の観光資源としての価値向上。